

エコ地域デザイン研究センター

I 2020年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2020年度大学評価結果総評】（参考）

エコ地域デザイン研究センターでは、学内外の研究者・専門家と連携した研究活動を積極的に行っており、さらに地域住民や行政、企業、教育機関と連携を深めることで高い研究活動を維持している。研究成果は、多くの著書や論文、報告書にまとめられ、シンポジウムも積極的に開催し社会的に広く還元されており、高く評価できる。しかしながら、外部資金の獲得に関しては様々な取り組みはみられるものの、懸案事項となっており、引き続きの努力が望まれる。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

2020年度は学内外の研究者・専門家と連携した研究活動を積極的に行っている点が評価された。今年度は新型コロナウイルスの影響で対面での議論は難しかったが、オンラインを活用することで「テリトリー」に関して開かれた議論の場をつくり、幅広い研究者・専門家との連携を持続する事ができた。

外部資金の調達に関しては、2020年度は「千代田学」にて獲得した。科研費申請は残念ながら採択には至らなかったが、オンラインなども活用して更に議論を深めるとともに対外的な発信を続け、エコ地域デザイン研究センターの社会的アピランスをより明確することで、外部資金の獲得につなげたい。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

エコ地域デザイン研究センターに対する「2020年度大学評価委員会の評価結果」では、学内外の研究者や専門家と連携した研究活動の推進および社会的還元の実践が高く評価される一方、外部資金の獲得については継続的な努力が求められると指摘された。この点については、2020年度の「千代田学」における外部資金の獲得に成功する一方、科研費申請が採択にいたらなかったことが報告され、対外的な発信をつづけるなかでエコ地域デザイン研究センターの社会的アピランスをより明確化し、それによって外部資金の調達につなげたいとの考えが示されており、大学評価委員会の評価結果に対する適切な対応として評価できる。今後はその着実な実行に期待したい。

II 自己点検・評価

1 研究活動

【2021年5月時点における点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 研究所（センター）の理念・目的に基づき、研究・教育活動が適切に行われているか。

2020年度の活動状況について項目ごとに具体的に記入してください。

①研究・教育活動実績（プロジェクト、シンポジウム、セミナー等）

※2020年度に研究所（センター）として実施したプロジェクト、シンポジウム、セミナー等について、開催日、場所、テーマ、内容、参加者等の詳細を記入。

○「玉川源流物語」(YouTube 公開)

【内容】「府中・玉川プロジェクト玉姫神楽づくり」の活動記録映像を公開

【動画】<https://youtu.be/sgRz1-T3o5Y>

○ 2019年度 法政大学エコ地域デザイン研究センター 年度末  
報告会

【日時】2020年2月25日（火）13:00-17:30

【会場】法政大学市ヶ谷田町校舎 5F マルチメディアホール

【主催】法政大学エコ地域デザイン研究センター

○ 気候変動と雨水活用シンポジウム&セミナー

「ドイツ雨水規格から日本の雨水の基準と制度を考える」

【日時】2020年2月19日（水）10:00～18:00

【会場】法政大学市ヶ谷キャンパスポアソナードタワー26階 スカイホール・A会議室

【主催】法政大学エコ地域デザイン研究センター、一般社団法人日本建築学会あまみず普及小委員会、公益社団法人雨水貯留浸透技術協会、特定非営利活動法人雨水まちづくりサポート

【プログラム】

第1部 [シンポジウム]

「雨水の基準と制度を考える」

第2部 [セミナー]

「日独雨水技術セミナー」

○ 第2回 テリトリーオ研究会

「～イタリア農業の底力～」

【日時】2020年9月16日(水) 15:00～17:00

【会場】ZOOMによるリモート開催

【主催】法政大学エコ地域デザイン研究センター、法政大学江戸東京研究センター(水都ー基層構造プロジェクト)

【プログラム】「テリトリーオ戦略による価値創出：アミアータ西麓の事例を手がかりに」

話題提供：木村純子(法政大学経営学部)

コメント：陣内秀信(法政大学特任教授)

ディスカッション進行：福井恒明(法政大学教授)

【内容】イタリアの農業経営や農業政策に関する話題提供をもとに日本への適用可能性についてディスカッションを行った。

○ 神谷博法政大学退任記念「環境生態学」特別講義

【日時】2020年11月11日(水) 18:30～20:30

【会場】千代田区立日比

谷図書文化館 日比谷コンベンションホール大ホール

【主催】法政大学エコ地域デザイン研究センター

【共催】法政大学江戸東京研究センター、法政大学デザイン工学部建築学科

【資料】<http://eco-history.ws.hosei.ac.jp/wp/2020/10/01/20201111/>

【動画】[https://youtu.be/DCnafNV\\_9Vk](https://youtu.be/DCnafNV_9Vk)

【プログラム】

挨拶：陣内秀信(法政大学特任教授)

特別講義：「サバイバルエコロジー」神谷博(法政大学エコ地域研究センター客員研究員)

ゲスト対談：「人新世を見据えて」糸長浩司(日本大学特任教授)

○ 第11回 外濠市民塾

「外濠 BAR」おぼんカウンター作成

【日時】2020年11月29日(日) 13:00～17:00

【会場】Lowp(ロウプ)地下1階

(新宿区市谷左内町52) + 外濠公園周辺

【主催】外濠市民塾実行委員会

【プログラム】

1. 挨拶・趣旨説明

2. おぼんカウンターペイント

3. フィールドワーク

4. フィールドワーク報告

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

②対外的に発表した研究成果(出版物、学会発表等)

※2020年度に研究所(センター)として刊行した出版物(発刊日、タイトル、著者、内容等)や実施した学会発表等(学会名、開催日、開催場所、発表者、内容等)の詳細を記入。

成果発表(出版・論文・研究会・講演会・シンポジウム等)

[出版]

陣内秀信「ヴェネト州の都市と地域の空間構造—地形と河川からの視点を中心として」『イタリアの中世都市—アゾロの都市から領域まで』(伊藤毅編)所収、鹿島出版会、2020年4月

朴賛弼『日本の風土と景観-西地方編-』韓国版、技文堂、2020年4月25日  
 島原中心市街地街づくり推進協議会『島原よろずまち湧水散策』（図面、資料、文章提供：高村雅彦）、島原中心市街地街づくり推進協議会、2020年5月  
 栗生はるか、金谷匡高、他（共著）旧渡辺甚吉邸サポーターズ監修、『奇跡の住宅 旧渡辺甚吉邸と室内装飾』、LIXIL 出版、2020年6月  
 朴賛弼（分担執筆）『民家を知る旅』、日本民俗建築学会編、彰国社、2020年6月10日  
 朴賛弼、伏見建著『基礎講座 建築環境工学』、学芸出版社、2020年7月31日  
 陣内秀信『水都東京一地形と歴史から読みとく下町・山の手・郊外』、筑摩書房、2020年10月  
 木村純子「特定農林水産物等の名称の保護に関する法律(地理的表示(GI)法)」、『世界の食文化百科事典』所収、丸善出版、2021年1月  
 朴賛弼（分担執筆）『日本の風土と景観-東地方編-』、技文堂、2021年2月1日

[報告書]

法政大学エコ地域デザイン研究センター『平成31年度千代田学 千代田区の地域史資料のアーカイブ化の展開』、2019年3月

[査読付論文]

高田秀之、吉田好邦、川久保俊、山口歩太「環境性能が集合住宅の販売価格及び中古取引価格に与える影響 CASBEE 横浜の評価結果を用いた実証分析」日本建築学会環境系論文集（767）、89-95、2020-01 日本建築学会、2020年1月  
 富安亮輔、岩佐明彦「分散型仮設団地と被災者の継続居住—熊本県嘉島町をケーススタディとして」日本建築学会技術報告集 第63号、2020年6月  
 長谷部 俊治「『対話』は事業参加の場—ダム建設事業に見る合意形成の条件—」『土木学会誌』 Vol. 105No. 3 p. 16-19、日本土木学会、2020年3月  
 Hidenobu JINNAI The locus of my study of Tokyo: From building typology to spatialanthropology and eco-history. Japan Architectural Review—International Journal of Japan, Architectural Review for Engineering and Design Volume3, Issue3 Jul. 2020  
 道奥康治、石積み堰の透過・伏没・越流解析と流況分類、土木学会論文集 B1 (水工学), Vol. 76, No. 1, 76. 1\_10, pp. 10-29, 2020.  
 Okamoto, Y., Nishio, J., Kanda, K., Michioku, K., Nakamura, F. and Kubo, H., Study on Riverbed Variation Management by groin at a River Confluence Associated with the Barrage Water, Proc. RIVER FLOW 2020, pp. 1-10, 2020.

[論文]

根崎光男「江戸町方における火の見櫓の建設と御鷹御用—牛込揚場町を事例として—」人間環境論集（法政大学人間環境学会）第20巻第2号、2020年3月23日  
 小島聡「上下流連携とサステナビリティ」『自治体学』 vol. 33-2 自治体学会、2020年3月  
 馬場憲一「近世都市周辺の宗教施設の由緒と『名所』化の動向—江戸近郊の『井の頭弁財天社』と『井の頭池』を事例として—」法政大学『多摩論集』第36号 pp. 137-157、2020年3月  
 馬場憲一「文化財保護領域における行政と市民との協働の実態と課題—『市民的公共圏』実現の視点から—」（法政大学『現代福祉研究』第20号 pp. 1-19、2020年3月  
 小島聡「人口減少社会における地域の持続可能性と政策論—〈私〉と〈社会〉の世代間継承可能性を手がかりとして」『自治研かながわ月報』 No. 183 公益社団法人 神奈川地方自治研究センター、2020年4月  
 川久保俊「持続可能な開発目標を活かした建築・都市分野の取組み（特集 あらためて「SDGs」を考える）」Re: Building maintenance & management 41(4), 10-15, 2020年4月  
 朴賛弼「夏におけるアクアレイヤーによる冷房効果の研究」『民俗建築』第157号、日本民俗建築学会46号、2020年5月  
 金田正夫・出口清孝「置屋根が冬の室内環境に与える影響について」『民俗建築』第157号、日本民俗建築学会46号、2020年5月  
 高見公雄「街づくり、景観と都市デザイン」新都市（令和2年6月号）、2020年6月  
 北山恒「横浜都市デザイン概観」都市美 第2巻、2020年6月

- 栗生はるか「文京建築会ユースの取り組み」建築士 Vol. 69, No. 814, 2020 年 7 月
- 北山恒「戦後住宅クロニクル」建築ジャーナル No. 1306, 2020 年 7 月
- 陣内秀信「東京 2020 の「いままで」と「これから」のまちづくり」『建築士』Vol. 69, No. 814, 2020 年 7 月
- 木村純子「酪農と SDGs との関わりによる豊かな社会の実現」『日本草地学会誌特集号』第 66 巻第 2 号, 111-115. 2020 年 7 月
- 根崎光男「徳川御殿の時期区分試論—将軍の鷹狩りを中心に—」人間環境論集（法政大学人間環境学会）21（1）、2020 年 10 月 31 日
- 朴賛弼「韓国伝統集落の空間構成の要素」『民俗建築』第 158 号、日本民俗建築学会、2020 年 11 月
- 木村純子「テリトリー・アプローチによる農村の内発的発展：トスカーナ州アミアータ・テリトリーオの事例（特集 イタリアに学ぶ、豊かさ）『都市計画学会誌』347 号、2020 年 11 月 15 日
- 増田政弘、福井恒明「明治以降の近代化に伴う公共空間の変遷—上野公園に関する新聞記事の考察—」景観・デザイン研究講演集 16、2020 年 12 月
- 阿部遼磨、福井恒明「水害リスク地域における市街地の展開過程とその要因」景観・デザイン研究講演集 16、2020 年 12 月
- 藤田景、福井恒明「千代田区を対象とした古写真のアーカイブ化」景観・デザイン研究講演集 16、2020 年 12 月
- 増淵実希、荻原知子、福井恒明「『婦人之友』誌にみる住まい方と価値観の変遷」景観・デザイン研究講演集 16、2020 年 12 月
- 堀越義人、福井恒明「川と地域が一体となったまちづくり推進における かわまちづくり支援制度の寄与」第 62 回土木計画学研究・講演集（CD-ROM）62、2020 年
- 福井恒明「観光考古学への期待」観光と考古学、2020 年
- 川久保俊「建築産業にとっての SDGs（特集 SDGs と住宅産業）」ALIA news：快適な住空間をめざして（167）、9-14、2020 年
- 川久保俊「ローカル SDGs の策定と推進に関する現状と課題（特集 SDGs と都市緑化）」都市緑化技術（111）、2-6、2020 年
- 川久保俊「工務店にとっての SDGs（特集 エコから温暖化に…そして今は SDGs）—（SDGs 時代の家づくり）」建築技術（852）、116-119、2021 年 1 月
- 南雄三、川久保俊「対談 SDGs がピンとこない（特集 エコから温暖化に…そして今は SDGs）—（SDGs 時代の家づくり）」建築技術（852）、106-115、2021 年 1 月
- [基調講演・招待講演・国際学会]
- 栗生はるか「文京建築会ユースの取り組み」日本建築士会連合会 第 28 回まちづくり会議、笹川記念会館、2020 年 1 月
- Haruka KURIU, Maintenance and succession of “regional ecosystems” - examples of public bath, “sento” in Tokyo. in Tokyo and Venice as Cities on Water :Past Memories and Future Perspectives, at Ca’ Foscari University of Venice, Jan. 2020
- Hidenobu JINNAI, Process of Regeneration of Water City in Tokyo and its Future Vision. in Tokyo and Venice as Cities on Water :Past Memories and Future Perspectives, at Ca’ Foscari University of Venice, Jan. 2020
- Masahiko TAKAMURA, Appropriate Range of the City in Edo-Tokyo provided by the Historical Sacred Place of the Water. in Tokyo and Venice as Cities on Water :Past Memories and Future Perspectives, at Ca’ Foscari University of Venice, Jan. 2020
- Makoto WATANABE, Yoko KINOSHITA, The Beginning and the Present Condition of Collective Housing in Tokyo: Center-Periphery, Inland-Waterfront. in Tokyo and Venice as Cities on Water :Past Memories and Future Perspectives, at Ca’ Foscari University of Venice, Jan. 2020
- Tsuneaki FUKUI, Attempt of conservation and restoration of cultural landscape in Tokyo - Case of Edo castle outer moats and Katsushika-Shibamata temple town, Tokyo and Venice as Cities on Water :Past Memories and Future Perspectives, Ca’ Foscari University of Venice, Jan. 2020
- 根崎光男「将軍の鷹狩りと御殿」江戸遺跡研究会第 32 回大会・徳川御殿の考古学、駒沢大学駒沢キャンパス 2 号館、2020 年 2 月
- 陣内秀信「水都東京—<水>から読みとく都市・自然・人間のむすびつき」第三回東アジア都市史学会学術大会、2020 年 10 月

陣内秀信「東京に秘められた水都としての可能性」江戸東京歴史文化ルネッサンス設立3周年記念シンポジウム、2020年10月  
 根崎光男「徳川将軍の鷹狩りと鷹場」第3回東アジア都市史学会学術大会、法政大学（Zoom開催）2020年10月  
 BAO Muping, TAKAMURA Masahiko, The Mediator of “immigration citizens”: A study on the history of Asian modern cities and architecture from the viewpoint of the Resident-style immigration. The 3rd international conference of the East-Asian Society for Urban History(Online), 17 October 2020  
 Hidenobu Jinnai, “Riqualficazione e rivitalizzazione dei centri storici e territori storici negli anni ricicanti in Giappone”, Convegno internazionale di ANCSA（イタリア/全国歴史芸術都市保存協会の創立60周年記念大会）, Italy/ Gubbio(オンライン)、2020年12月  
 Hidenobu Jinnai, “I ventennali risultati di un progetto di ricerca :dal centro storico di Amalfi alla Costiera Amalfitana”, Convegno di studi:Le ‘Città dell’acqua’ sulle Coste d’ Amalfi e Venezia.Valori, immagine, progetto, Amalfi, 2020.12  
 道奥康治, 気候変動下の総合治水と持続可能社会, 武庫川の総合的な治水対策シンポジウム, 基調講演・パネルディスカッション, 2020年

[学会発表]

朴賛弼「韓国伝統集落の空間構成の要素」日本民俗建築学会47回大会、江戸東京博物館、2020年7月12日  
 邵帥・高村 雅彦「広州における建国前後の都市計画と住宅地の変遷—東アジア都市の近現代における住宅地形成と集合住宅に関する研究 その5」日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）オンライン発表、2020年9月  
 木村純子「イタリア農業の底力:アミアータのテリトリーオ」法政大学イノベーション・マネジメント研究センター主催シンポジウム『エノガストロノミアとテリトリーオ:日本とイタリアの農業文化の発展』2020年10月10日開催

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

③研究成果に対する社会的評価（書評・論文等）

※研究所（センター）がこれまでに発行した刊行物に対して2020年度に書かれた書評（刊行物名、件数等）や2020年度に引用された論文（論文タイトル、件数等）、2020年度のwebサイトアクセス件数、掲載コンテンツダウンロード件数、表彰・受賞歴等の詳細を記入。

・特になし

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

④研究所（センター）に対する外部からの組織評価（第三者評価等）

※2020年度に外部評価を受けている場合には概要を記入。外部評価を受けていない場合については、現状の取り組みや課題、今後の対応等を記入。

- ・質保証活動は運営委員会において実施している。
- ・運営委員会の構成員はセンター長を含め25名の兼任研究員及び客員研究員であり、議題に応じてはオブザーバーの参加も規定上認められている。運営委員会では各委員からの報告を受け、それに応じて広く議論を行い、研究活動の質の向上に努めている。
- ・イベントやシンポジウムでのアンケートを中心に、学内外を問わず、幅広い立場の方々からの意見や指摘を受ける体制を整えている。加えて、各プロジェクトでは、地元の町会や企業、行政との連携が取られているため、事業内容についてその都度評価を受ける柔軟な体制が築かれている。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

⑤科研費等外部資金の応募・獲得状況

※2020年度中に研究所（センター）として応募した科研費等外部資金（外部資金の名称、件数等）及び2020年度中に採択を受けた科研費等外部資金（外部資金の名称、件数、金額等）を記入。

**【採択を受けた外部資金】**

- ・2021年度「千代田学」（千代田区内にある短期大学、大学、大学院等の研究機関が千代田区の様々な事象を多様な切り口で調査・研究し、その定着と発展、また、各学校が区及び地域と連携を図ることを目指して、事業経費の一部を補助するもの）に下記の事業が採択。
  - 千代田区における外部空間のニューノーマル
  - 岩佐明彦 エコ地域デザイン研究センター

**■概要：**  
 本事業では現有する千代田区の外部公共空間（公園や街路など）を再検証し、公共空間利用のニューノーマル（新しい様態）を示すことで、新しい生活様式に対応した都市計画・都市政策の策定に資する資料の提供を行うことをめざす。  
 （事業実施期間 2021年4月1日から2022年3月31日）

**【応募した外部資金】**  
 2021年度 科研費基盤研究(A)（一般）「テリトリーオ概念を援用した地域課題への包括的アプローチ」（代表；福井恒明）（不採択）

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。  
 ・特になし

⑥研究所（センター）における研究活動等に関して、COVID-19への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。

**※取り組みの概要を記入。**  
 運営委員会などの打ち合わせや、研究会をオンラインで実施している。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。  
 ・特になし

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させるために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> <li>当センターは、学内外の研究者と連携した研究活動が活発であり、さらに連携対象が研究者に限らず、地域住民・行政・企業・教育機関と多岐に渡ることが特色といえる。また、多くのプロジェクトに地元の住民や行政・企業が関わり、活動に対するフィードバックを受けやすい体制にある。</li> <li>運営委員会は、文理を横断した専門性を持つ研究者から構成されており、多角的な視点による研究活動を推進することができる。</li> <li>各プロジェクトでは、これまで蓄積してきた成果や研究者のネットワークを活かしながら、対外的に多くの活動を行っている。さらにシンポジウムや論文執筆、報告書刊行により、研究成果の社会的還元を積極的に行っている。</li> </ul>	

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> <li>外部資金の獲得が懸案事項である。千代田学事業については引き続き2021年度も採択を受けているものの比較的少額でテーマも限定的である。科研費申請をはじめ、引き続き外部資金の獲得のための努力を続けたい。</li> </ul>	

**【この基準の大学評価】**

エコ地域デザイン研究センターでは、学内外の研究者と連携した研究活動のみならず、地域住民や行政・企業・教育機関との協力のもと、研究成果の地域社会への還元を視野に入れた活動を積極的に展開しており、いずれの項目においても高い水準の達成状況が認められる。質保証活動は運営委員会において実施されており、各委員からの報告にもとづいて広く議論を行ない、研究活動の質の向上につなげている点も高く評価できる。加えて、イベントやシンポジウムでのアンケートを中心に、学内外を問わずさまざまな方からの意見を踏まえ、研究活動の質の向上に活かしている点も特筆に値する。運営委員会などの打ち合わせや研究会をオンラインで実施するなど、COVID-19への適切な対応も評価に値する。一方、「問題点・課題」にも記されているように、外部資金の獲得が今後の課題として挙げられる。千代田学事業については引き続き2021年度も採択されているが、これからは科研費申請をはじめ、外部資金のさらなる獲得にむけた取り組みに期待したい。

Ⅲ 2020 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	研究活動	
1	中期目標	都市とその周辺地域の成り立ちや関係性を、歴史文化・水循環などの観点から総合的に捉える新たな領域概念「テリトリーオ」を提示する。	
	年度目標	「テリトリーオ」概念をより深めるために、様々な領域の研究者・専門家と意見交換を行う。	
	達成指標	外部の研究者・専門家を招いてテリトリーオをテーマとした研究会を開催する。	
	年度末報告	執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		テリトリーオ研究会を開催したほか、年度報告会では実践的に活動する 4 名をオンラインでつないだディスカッションを行った。	
	改善策	—	
No	評価基準	社会連携・社会貢献	
2	中期目標	学術的知見をもとに、近未来の都心部及び都心周縁部のあり方や具体的な地域の姿について、地域と共に議論し社会的な発信を行う。	
	年度目標	地域と共に競技しその成果を発信する場を設ける。	
	達成指標	地域と共同した議論と発信を行う。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		佐原市でまちづくり活動を行う NPO 法人との連携について協議を進めた。	
	改善策	—	
<p><b>【重点目標】</b> 「テリトリーオ」概念をより深めるために、様々な領域の研究者・専門家と意見交換を行う。</p> <p><b>【目標を達成するための施策等】</b> 研究会開催に向けて準備をすすめる。HP 等で告知し対外的な発信に努める。</p> <p><b>【年度目標達成状況総括】</b> 新型コロナウイルスの影響でほぼすべての活動がオンラインとなり、活動の停滞が懸念されたが、時間や距離の制約が低減されるオンラインミーティングの特徴を活かすことで、充実した意見交換を行うことができた。</p>			

【2020 年度目標の達成状況に関する大学評価】

エコ地域デザイン研究センターでは、コロナウイルス感染拡大という未曾有の状況のなか、多くの活動がオンラインで実施されたものの、オンラインならではの長所を活かした充実した活動が展開されたとの総括がなされており、高く評価できる。また、テリトリーオ研究会の開催のほか、年度報告会を実施し、実践的活動に携わる 4 名をオンラインでつないでディスカッションを行うなど、年度目標および「重点目標」が達成されたことも評価に値する。研究センター全体の活動がオンラインで実施することとなった。オンラインミーティングの特徴を活かすことで充実した意見交換を行うことが出来た一方で、フィールド調査の実施は困難を極め、新しい知見の蓄積が減少した。

Ⅳ 2021 年度中期目標・年度目標

No	評価基準	研究活動
1	中期目標	都市とその周辺地域の成り立ちや関係性を、歴史文化・水循環などの観点から総合的に捉える新たな領域概念「テリトリーオ」を提示する。
	年度目標	「テリトリーオ」概念の精査のために、特定の地域をケーススタディとした研究会を開き、様々な領域の研究 者・専門家と意見交換を行う。
	達成指標	テリトリーオに関して、特定の地域をケーススタディとした研究会を開催。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
2	中期目標	学術的知見をもとに、近未来の都心部及び都心周縁部のあり方や具体的な地域の姿について、地域と共に議論し社会的な発信を行う。

年度目標	地域と共に協議しその成果を発信する場を、単発ではなく持続的に運営する。
達成指標	地域と共同した研究会の運営。

**【重点目標】**

「テリトリーオ」概念の精査のために、特定の地域をケーススタディとした研究会を開き、様々な領域の研究者・専門家と意見交換を行う。

**【目標を達成するための施策等】**

研究会開催に向けて準備をすすめる。HP 等で告知し対外的な発信に努める。

**【2021 年度中期目標・年度目標に関する大学評価】**

エコ地域デザイン研究センターでは、「研究活動」と「社会貢献・社会連携」いずれも前年度の活動を引き継ぐかたちで、さらなる発展や深化をめざす適切な年度目標となっている。「2020 年度中期目標・年度目標達成状況報告書」のなかに改善策に関する具体的な記述があれば、それを踏まえた 2021 年度の目標設定が可能となり、研究の質の向上にむけたエコ地域デザイン研究センターとしての取り組みの持続性や一貫性をより明確なかたちで示すことができるものと思われる。

**【大学評価総評】**

エコ地域デザイン研究センターは、活動記録映像の公開や法政大学エコ地域デザイン研究センターの年度末報告会、気候変動と雨水活用をテーマとしたシンポジウム、あるいはテリトリーオ研究会の開催など、学内外の研究者や専門家と連携した研究活動を活発に展開している。佐原市でまちづくり活動を行なう NPO 法人との連携に関する協議の場を設けるなど、ユニークな試みもみられ、年度目標の達成に寄与している点が評価に値する。また、図書の刊行や報告書・論文の発表、講演や学会発表への参加など、多岐にわたる相当数の実績が認められ、対外的な成果の発表および社会的還元の実践という点でめざましい実績を積み上げている。エコ地域デザイン研究センター内に設置されている運営委員会には、文理を横断した研究を行なっている専門家が参加しており、多角的な視点からの研究活動を支える組織として注目に値する。今後は、改善点の洗い出しを踏まえた目標設定を通して、研究活動のさらなる充実をめざしていただきたい。